

平成28年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No. 2）

平成28年6月27日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

6月15日から22日に、補植用置き苗におけるイネいもち病発病調査を行った結果、発生は平年並であった。一部のほ場では、本田における発病が認められているが、広域発生には至っていない。

ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件の出現状況は、6月4日から26日までの期間に3回確認されている。

今後も、曇雨天が続くことが予想されていることから、置き苗処分の徹底を図るとともに、ほ場の見回りを行って、本病の早期発見に努め、状況に応じた適切な対応を取ることが必要である。

2 発生状況等

(1) 巡回調査定点における補植用置き苗の放置ほ場率は11.5%（平年：10.5%）であった。また、調査ほ場全体に対する、補植用置き苗で本病の発病が認められたほ場の割合は0.8%（平年：0.6%）であった（表1）。

(2) 一部の地域では、発病苗を移植したほ場や、発病した置き苗の周辺ほ場（本田）において、発病が認められているが、広域発生には至っていない。

表1 巡回調査定点における調査結果（6月下旬）

	置き苗放置ほ場率 (%)		置き苗発病ほ場率 (%)	
	本年	平年	本年	平年
県平均	11.5	10.5	0.8	0.6

(3) ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適

注) 置き苗発病ほ場率：調査ほ場全体に対して、置き苗で発病が認められたほ場の割合。

条件は、6月5日、6月17日及び6月23日に広域で出現した（表2）。

表2 ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
6/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/5	○	○	○	○	○	○	●	○	—
6/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/7	—	—	—	○	—	—	—	—	—
6/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/15	—	—	—	—	—	—	—	—	○
6/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/17	—	—	●	●	—	—	—	—	●
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/19	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/21	—	—	●	—	—	—	—	—	—
6/22	—	—	—	●	—	—	—	—	—
6/23	●	●	●	—	●	●	●	—	●
6/24	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/26	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(4) 6月23日発表の気象1か月予報によると、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生に助長的である。

* ブラスタムについて

ブラスタムとは、アメダスの気象データを用いて、葉いもちの感染に好適な条件であったかどうかを広域的に判定するシステムである。いもち病は感染後、発病するまで約1週間かかるため、感染好適日が広域に出現してから、約1週間後に広域に新しい病斑が確認できる。

注) ●感染好適日、○準感染好適日

3 防除上注意すべき事項

- (1) 置き苗は、本田へのいもち病の伝染源となるので、早急に処分する。
- (2) 育苗箱施用剤を使用しても十分な効果が得られない場合があるので、ほ場の見回りなどを行い早期発見に努める。
- (3) 本田施用粒剤（オリゼメート粒剤等）を使用する場合は、予防防除が基本であり、発生後では十分な効果が得られない。
- (4) 本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、治療効果を有する粉剤、水和剤などを散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。
- (5) 降雨が続く場合でも雨の止み間に防除を行い、適期を失しないようにする（粉剤散布後3時間程度降雨がなければ防除効果は十分にある）。
- (6) 本県では、ストロビルリン系薬剤耐性菌が発生しているため、本系統薬剤の使用を控える。
- (7) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。